漁海況旬報　ちば
№１４－２３
平成１４年８月１６日発行
千葉県水産研究センター
千葉県水産情報通信センター

２００２(平成１４)年サンマ棒受網漁の見通し

去る８月５日(月)・６日(火)に独立行政法人水産総合研究センター東北区水産研究所(宮城県塩釜市)にて，サンマ長期漁況海況予報会議が開かれ，本年のサンマ棒受網漁に関する漁海況予報が発表されました。今回はその内容をお伝えします。

Ⅰ．予　測

《海況予測(９～11月)》(図１参照)

①親潮第１分枝の張り出しは，平年よりやや北寄り(北緯40度30分以北)となる。親潮第２分枝の張り出しは平年並(北緯39度付近まで)となる。三陸南部～常磐北部近海では一時的に冷水の影響がある。
②鮫角沖にある暖水塊は北東へ移動する。
③津軽暖流の下北半島東方への張り出しは，平年よりやや強め(東経143度20分付近まで)となる。
④黒潮系暖水の北への張り出しは，近海(東経146度以西)で平年並み(北緯40度を越える)。沖合で平年より北寄り(東経148～150度付近で北緯40度30分を越える)。
⑤近海の黒潮の北限は平年並～やや北寄り(北緯36～37度)で推移する。

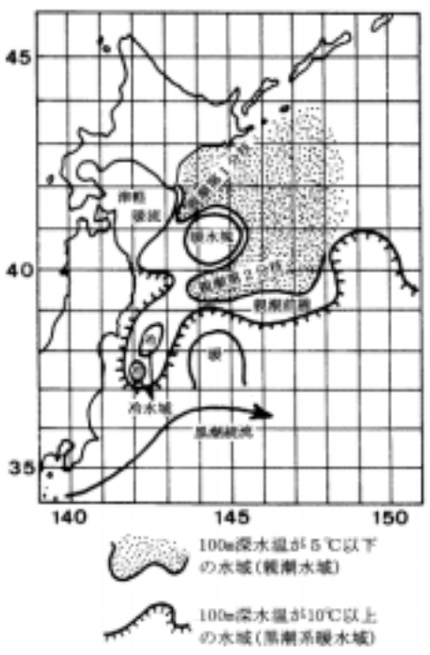

図１　2002年９月下旬に想定される東北海区の海況模式図

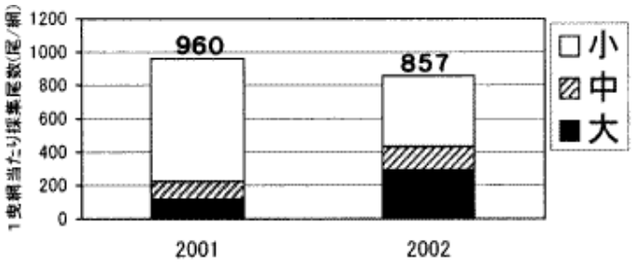

図２　2001年と2002年のサンマ北上期調査および漁期前調査における中層トロールによる１曳網あたりのサンマ採集尾数.

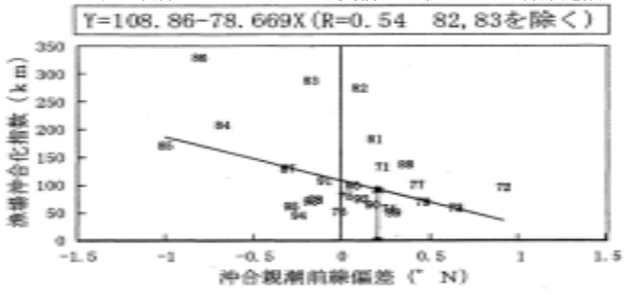

図３　1971～1995年における８月沖合域(東経146～155度)親潮前線の南北変動とサンマ棒受網漁場の平均距離の関係(前線が北にあるほど,漁場は近くにできる。矢印は2002年の前線位置の偏差を示す).

《漁況予測(８月中旬月,漁場については９月まで)》

①来　遊　量　　昨年並となる。
②漁期・漁場　　初期漁場は色丹島沖(北方４島200カイリ水域内)から道東沖に形成される。漁況は漁期当初には低調であるが，沖合からの魚群の加入に伴い好転する。魚群の南下は例年より早く，９月中旬には三陸沿岸に漁場が形成される。
③魚 体 組 成　　漁期当初は中型魚(体長24cm以上29cm未満)・小型魚主体(18cm以上24cm未満)。その後，沖合から大型魚(29cm以上)の割合が高い魚群が来遊する。大型魚は昨年より体長モードが１cm小さく(昨年32cmモード)，肥満度も低い。

【説　明】

①６～７月の北上期および漁期前調査で東北水研が行った中層トロールによる採集結果では，北方４島～三陸沖合の東経162度以西の海域における１曳網当たりのサンマ採集尾数は，昨年をわずかに下回りました(図２)。しかし採集されたサンマの体長組成は昨年より大型魚の割合が高く(図２)，重量では昨年並みの分布量が見込まれます。
②沖合(東経146～155度)の親潮前線の位置が平年よりやや北寄りにあるので，漁期全体の漁場位置は沿岸寄りになると考えられること(図３)，そして道東沖の水温が昨年より低いことから，初期漁場は色丹島～道東沖となるでしょう。また今後の暖水塊の位置や津軽暖流の張り出しが魚群の南下を阻むほどではないと予測されることから，三陸沿岸の漁場形成は平年(９月下旬)より早めとなるでしょう。

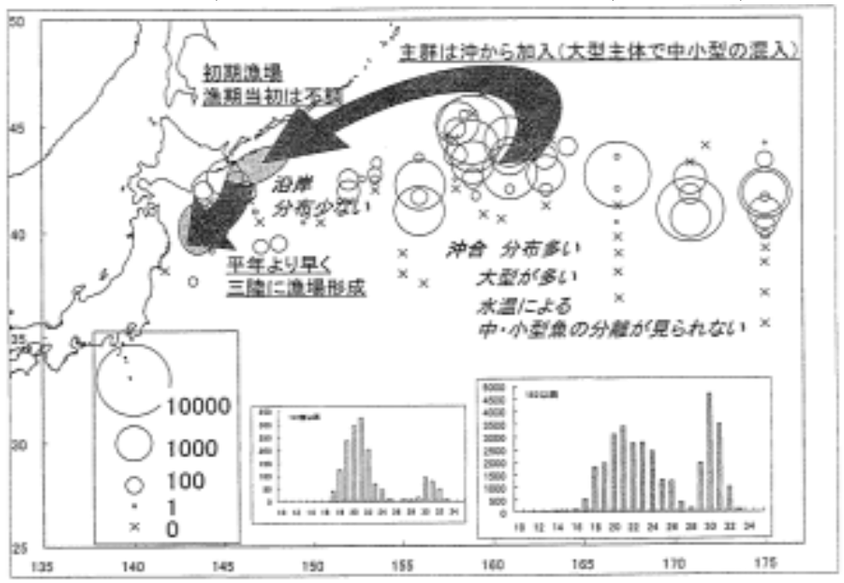

図４ 2002年北上期および漁期前調査における中層トロール 1曳網当たりのサンマ採集尾数の分布と採集されたサンマの体長組成. 図中の黒い矢印は想定される魚群の回遊経路.

６～７月に各県水試が行った流し網による採集結果から，今年は沿岸を北上した群れが少なかったと考えられます。他方，同じ時期に東経155度以東の沖合域では，トロール調査でまとまった魚群の分布が確認されています(図４)。この沖合からの魚群の来遊が本格化するまで,沿岸を北上した魚群を対象に低調な漁況が続くでしょう。

③６～７月に東経155度から160度付近にまとまって分布していた魚群の体長組成は20cmと30cmにモードがありました(図４)。昨年と比較すると，大型魚の割合が高いこと，全調査海域で大型魚と中・小型魚がともにみられ,水温が異なる海域間でも体長組成に違いがないこと，大型魚はモードが昨年より１cm小さく肥満度が低いことが特徴でした。

《情報》８月中旬現在，道東沿岸で小型船が中・小型魚主体の漁獲を続けています。本県調査船「房総丸」は７月30日から道東沿岸で調査を行いましたが，漁獲したサンマは中・小型魚主体(24cmモード)でした。「千葉丸」は８月13～14日に北緯42度40分～41度50分，東経151度～152度20分(海面水温11.9～14.0℃)を探索しましたが，魚群は発見できませんでした。沖合から魚群が来遊し始めるまで中・小型魚主体の漁獲が続くでしょう。